

## 俣野別邸

このコーナーではスクランブル調査隊メンバーが関わったり、探訪した、神奈川県内の歴史的な建物やまちなみを紹介します。

JR戸塚駅からバスで25分、JR藤沢駅からバスで10分程の「鉄砲宿」バス停の近くに俣野別邸庭園があります。横浜市と藤沢市の市境に位置し、広大な庭園の敷地の中に俣野別邸が建っています。

ご存知の方も多いかと思いますが、俣野別邸は、平成21年3月に保存修理工事の最中に火災に遭い、大部分を焼失してしまいました。平成16年に国の重要文化財指定を受けていましたが、焼失後の平成23年に指定解除されています。その後、横浜市が公園の施設として建物を再建し、平成29年4月に一般公開されました。

建物の設計者は、佐藤秀工務店の創業者である佐藤秀三で、昭和初期のモダニズム影響下におけるハーフティンバー・スタイルを一部に取り入れた和洋折衷住宅として評価され、Y字型に配置された平面構成に特徴があります。



俣野別邸外観（北側）

再建にあたって、部屋の間取り等は公園施設として一部改変・付加等をしてはいますが、室内の造作や仕上げは焼失前の写真や図面、資料等を参考にして当初のものを再現しています。幸い、再建工事の施工者も佐藤秀が携わるようになったため、佐藤秀三の仕様などを確認しながら再現することが可能でした。

また、屋根の瓦、木製建具、照明器具のほとんどは、保管小屋に残り焼失を免れていたため、修理をして再

利用しています。木製建具や照明器具は、アールデコ風のデザインのもが多く、建物の見どころの一つにもなっています。

一般公開後は、喫茶や貸室での利用もできるようになりました。昭和初期の郊外邸宅の空間を体験しに、一度訪れてみてはいかがでしょうか。



俣野別邸外観（南側）



居間・食堂

### 概要

名称：俣野別邸

所在地：横浜市戸塚区東俣野町80番1

敷地面積：58,996 m<sup>2</sup>

床面積：主屋 753.27 m<sup>2</sup>、付属屋 49.69 m<sup>2</sup>

建設年：昭和14（1939）年竣工（当初）

再建年：平成28（2016）年3月竣工

施工：佐藤秀工務店（当初）株式会社佐藤秀（再建）

構造：木造一部レンガ造・2階建て

屋根：切妻造瓦葺（主屋 S 字瓦、付属屋 棧瓦）

外壁：リシン掻き落とし及び箱目地下見板張

（スクランブル調査隊 戸田 啓太）

# 神奈川建築コンクールの60年 ～神奈川における近代建築の系譜

第60回を迎えた平成28年度の神奈川建築コンクールの入賞作品について、SALON 82号でお伝えしたところです。人間で言えば「還暦」を迎えた神奈川建築コンクール、毎年開催され、さまざまな用途の建築物が受賞していますが、これまでどのような建築物が神奈川建築コンクールで評価され受賞しているのかをご存じの会員は多くないのではないでしょうか。そこで、SALON 83号ではこの神奈川建築コンクールの歴史を振り返るとともに、神奈川における近代建築の系譜といえる代表的な受賞作を特集として取り上げてみることにしました。

## 1 神奈川建築コンクールとは

神奈川建築コンクールは、昭和31年(1956)に、神奈川県と横浜市、川崎市、横須賀市の3市が共同して始められました。もともとは昭和28年(1953)に横浜市が復興建築促進策として始めた「建築コンクール」が対象地域を拡大・発展したものです。昭和61年(1986)以降は神奈川県と県内12市(横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市、藤沢市、鎌倉市、厚木市、平塚市、小田原市、秦野市、茅ヶ崎市、大和市)が共同して、神奈川県の建築文化・建築技術の向上を図り、魅力あるまちづくりを推進することを目的に開催しています。現在では神奈川県内で過去2年以内に完成した建築物が対象で、優れた建築物の建築主・設計者・施工者を表彰しています。

なお、神奈川建築コンクールには、協賛団体として、(一社)神奈川県建築士会をはじめ、(一社)神奈川県建築士事務所協会、(公社)日本建築家協会関東甲信越支部神奈川地域会 JIA神奈川など、8団体が参加しているほか、神奈川新聞をはじめ報道8機関が後援しています。

その選考方法ですが、現在、コンクールは「住宅部門」と「一般建築部門」に分かれており、各部門6名

ずつの審査委員が、まず図面、写真等による一次選考(書類審査)を行い、複数の候補作品を選定します。これらの作品について二次選考(現地審査)を実施して、さらに企画・設計・施工等について総合的に判断したうえで、二次選考作品の中から入賞作品を決定します。

ちなみに本神奈川県建築士会からも審査委員として、ひとりが選定されており、「一般建築物部門」作品の選考にあたっています。現在、神奈川県建築コンクールの開催窓口は、神奈川県県土整備局建築住宅部建築安全課が担当しています。

## 2 神奈川建築コンクールの歴史を振り返る

これまでに数多くの受賞作を選考してきた神奈川建築コンクールですが、過去、どのような建築物が選ばれてきたのでしょうか。ここでは主な受賞作品と、コンクールの変遷について記すことにしましょう。

### ■ 第1回 昭和31年(1956)の受賞作品

昭和31年(1956)に開催された第1回神奈川建築コンクールは、受賞作品はまだ部門別に分かれておらず、計12作品が受賞しています。

栄えある第1回受賞作品ですので、全作品を所在地別にご紹介しておきましょう。

- ・横浜第一商業高等学校体育館(横浜市鶴見区)
- ・スミノビル(横浜市中区)
- ・有隣堂ビルディング(横浜市中区)
- ・横浜センター(横浜市西区)
- ・杉山神社社殿(横浜市西区)
- ・川崎市立市民会館(川崎市)
- ・川崎市信用金庫(川崎市)
- ・日本鋼管従業員教習所(川崎市)
- ・浦賀船渠病院(横須賀市)
- ・神奈川県立近代美術館(鎌倉市)



神奈川県立近代美術館

# 神奈川建築コンクールの60年 ～神奈川における近代建築の系譜

- ・神奈川県立工芸指導所（小田原市）
- ・相模原ゴルフクラブ（相模原市）

本号の表紙を飾る鎌倉市・神奈川県立近代美術館（設計：坂倉準三建築研究所、施工：馬淵建設(株)）もこの第1回コンクールの受賞作品です。

## ■ 入選・佳作に分かれた第5回 昭和35年（1960）

昭和35年（1960）に開催された第5回から、受賞作品は新たに「入選の部門」と「佳作の部門」に変更されています。その第5回コンクールの「入選の部門」では、横浜市庁舎（設計：村野・森建築設計事務所、施工：(株)戸田組）をはじめ10作品が、「佳作の部門」には川崎市役所職員共済組合いさご会館（設計：川崎市、施工：(株)山根工務店）をはじめ3作品が受賞しました。この「入選の部門」「佳作の部門」の受賞は第7回コンクールまで3年間続いています。

## ■ 「住宅部門」「一般建築物部門」が始まる

昭和38年（1963）の第8回コンクールから、個人住宅を対象とした「住宅部門」と、業務・商業・学校・病院・集合住宅等を対象とした「一般建築物部門」の受賞が始まっています。

さらに昭和41年（1966）の第11回コンクールからは、それぞれの部門に『優秀賞』『佳作賞』が誕生しました。

この結果、第11回コンクールの受賞作品は以下のとおり、合計32作品が受賞しています。

「住宅部門」	優秀賞	3作品
「同」	佳作賞	8作品
「一般建築物部門」	優秀賞	6作品



いさご会館

「同」 佳作賞 15作品。

ちなみに第11回コンクールの一般建築物部門では、横須賀市文化会館（設計：創和建築設計事務所、施工：(株)大林組）が優秀賞に、横浜市・紅葉坂の神奈川県立青少年会館（(株)前川国男

建築設計事務所、施工：(株)松

尾工務店）や「こどもの国野外集会所セントラルロッジ」（設計：黒川紀章建築都市設計事務所、施工：(株)竹中工務店横浜営業所）などが佳作賞を受賞しています。

## ■ 気になるあの建築物は…

ル・コルビュジェの弟子である前川國男、坂倉準三は、SALON 80号の特集で触れたように、神奈川県内に数多くの作品を残しています。前回触

れなかった坂倉準三の作品

で最大級のものは、神奈川県庁新庁舎（施工：鹿島建設(株)）。

昭和42年（1967）の第12回コンクールにおいて一般建築物部門で優秀賞を受賞しました。

また、その年には、東海大学湘南校舎3号館（設計：山田

守建築事務所、施工：大成建設

(株)横浜支店）が同部門の佳作賞を受けています。いま観てみてもさすが「分離派建築会」を起し、東京中



横須賀市文化会館

# 神奈川建築コンクールの60年 ～神奈川における近代建築の系譜



横浜市庁舎

央電信局に代表される、モダニズム建築を進めた山田守の建築だと感じられる作品です。当時、山田守は東海大学工学部建設工学科建築学科教授でもあり、東海大学湘南キャンパスの全体計画と、初期の校舎群の設計を行っています。

岐阜県生まれの山田守ですが、意外に神奈川県内に作品が多く、TV番組「ウルトラマン」の撮影にたびたび使われた、川崎市多摩区の長沢浄水場（昭和32年（1967））（建築士の試験会場によく使われる専修大学生田キャンパスのそばです）などがあります。筆者の個人的な感想としては、あのマッシュルーム状の柱は、フランク・ロイド・ライトのジョンソンワックス社本社事務所棟にヒントを得たものかもしれないな、と考えもしていますが…。

変わったところでは日本武道館や京都タワー（いずれも昭和39年（1964））も山田守の建築作品ですが、特に京都タワーは大々的な景観論争を巻き起こし、そのデザインに批判を受けるなか、山田は論争の終結を待たず昭和41年（1966）に77歳で逝去しました。

## ■ なかなか住宅は見ることはできませんが…

「住宅部門」は個人住宅の受賞作品が多く、そうはなかなか見ることも叶いません。そんななかで、おそらく会員の皆さんの多くが学生時代に学校等で学んだことのある集合住宅の作品が、昭和44年（1964）の第14回コンクールにおいて住宅部門の優秀賞を受賞しています。横浜市青葉区にある124戸の集合住宅、桜台ビレジ（設計：内井昭蔵建築設計事務所、施工：東急建設㈱）です。

同じ桜台には、昭和45年（1970）の日本建築学会賞を受賞した桜台コートビレジ（設計：内井昭蔵建築設

計事務所、施工：東急建設㈱）が建っており、建築から50年近く経った現在でも少しも古さを感じさせない姿を見せています。なお、桜台コートビレジは神奈川建築コンクールでは受賞していません。

## ■ 高度経済成長時代のコンクール

経済活動の活発化に伴い建築計画が増えていった

1970年代には、受賞分野がさらに広がりました。昭和46年（1971）には、それまでの「住宅部門」「一般建築物部門」に、集合住宅に特化した「集団建築部門」が新たに加わりました。この年の受賞作品数は計29作品、栄えある集団建築部門の優秀賞の第1号は、横浜市青葉区の川崎汽船恩田アパート（設計・施工：㈱竹中工務店）、佳作賞は横浜市南区の住宅公団井土ヶ谷東市街地住宅（設計・施工：日本住宅公団関東支社）が受賞しています。

大阪・千里で日本万国博覧会が開催された年、昭和45年（1970）の第15回コンクールでは、その時代を象徴する設計組織や建築家の作品の受賞作品が並んでいます。その年の一般建築物部門の優秀賞全5作品を挙げてみましょう。

## 東海大学湘南校舎3号館



# 神奈川建築コンクールの60年 ～神奈川における近代建築の系譜

鎌倉市庁舎（設計：久米設計事務所、施工：(株)藤田組）、相模原市庁舎（設計：(株)日建設計、施工：(株)熊谷組）、日産自動車(株)追浜工場体育館（設計：大高建築設計事務所、施工：(株)藤田組）、日本オリベッティ中央倉庫（横浜市）（設計：丹下健三(株)都市建築設計研究所、施工：(株)竹中工務店）、富士フィルム葉山寮（設計：芦原義信建築設計研究所、施工：鹿島建設(株)）の5作品。

まさに「あの時代」を感じさせるラインナップといえましょう。

## ■ 第21回、第31回のコンクール受賞作品

現在では取り壊され、なくなった名建築が昭和51年（1976）第21回コンクールにおいて一般建築物部門の最優秀賞を受賞しています。藤沢市労働会館（設計：群建築研究所、施工：(株)奥村組東京支店）、独特なフォルムを持つ印象深い建築物でした。経済活動の活発化に伴い建築計画が増えていった1970年代には、受賞分野がさらに広がりました。先ほど

述べたように、昭

和46年（1971）

の第16回コ

ンクールか

らは、マ

ンショ

ン等の

増加な

どもあり、

集合住宅

に特化し

た「集団建築部

門」が新たに加わっています。

昭和61年（1986）第31回コンクールでは横浜人形の家（設計：(株)坂倉建築研究所、施工：(株)竹中工務店・日成工業(株)建設共同企業体）が一般建築物部門の最優秀賞を、南足柄市役所（設計：(株)佐藤武夫設計事務所、施工：清水建設(株)横浜支店）や横浜新都市ビル（設計：三菱地所(株)一級建築士事務所・(株)石本建築事務所、施工：横浜新都市センタービル新築工事建設共同企業体）などが優秀賞を受賞していますが、

施工者がJVであるなど、これも時代の流れを感じさせる結果となっています。



川崎市立市民会館

## ■ 平成の時代のコンクール受賞作品

平成8年（1996）の第41回建築コンクールでは、横

浜能楽堂（設計：(有)大江

宏建築事務所、施工：竹中・住友・紅梅建設共同企業体）が一般建築物部門の優秀賞を、藤野芸術の家（仙田満+環境デザイン研究所、施工：(芸術棟)日本鋼管工事・吉原建設特定建設工事共同企業体（宿泊棟）(株)松尾工務店）が同部門の奨励賞を受賞しています。

その後、神奈川建築コンクールは新たに環境や福祉、

既存建築物有効活用に貢献する「アピール賞」を新設するなど、時代の社会的要請を受けて少しずつ変化しながら、今に至っています。

SALON 83号では、第1回から60回、すなわち60年を積み重ねてきた神奈川建築コンクールについて特集してみました。

特集の最後に。

今年6月開催される平成29年関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議

会「かながわ箱根大会」のメイン会場の「湯本富士屋ホテル」（設計・施工：(株)竹中工務店東京支社）は、昭和49年（1974）第19回コンクールの一般建築物部門・優秀賞受賞作品です。箱根大会に参加される方々は、他都県からの参加者の方々に、トリビアな話題提供のひとつとして、神奈川建築コンクールについてや、県内の建築物の良さと近代建築の系譜について、ぜひよくアピールしていただきたいと考えます。

（文責：編集部・小笠原 泉）

# 神奈川県建築士会・建築士試験合格者セミナー けんちくラーニングのススメ



## 神奈川県建築士会・建築士試験合格者セミナーの流れ



▲冒頭、合格者のみなさまに対し、  
祝辞を述べる長田副会長

…平成29年2月26日(日)、平成28年度の建築士試験合格者を対象とした合格者セミナーと、期日までに免許登録申請を行った人を対象に免許証明書交付式を開催いたしました。

…もともとこの企画は、平成17年の構造計算書偽装事件を発端として、試験合格を節目とした新資格者の意識醸成と資質向上、また、どんな時も、今一度、原点に帰る場所づくりとして平成19年度から実施されてきました。

…また、建築士会という場を知っていただく機能として、このセミナー参加者からは青年委員会の奈良直史委員長(第1回受講生)をはじめ、アクティブな若手会員が次々と誕生。会員増強のモデル事業として、全国大会でも事例報告され、神奈川士会のモデルは全国各地の建築士会でも踏襲されるようになってきています。

## 第1部 いまさら聞けない確認申請講座

このセミナーは全般に、初歩的内容ながらも、試験では出題されにくい話、或いは、神奈川県エリア独自の条例や要綱等について構成されており、故に「いまさら聞けない」という冠を付け、審査業務の第一線でご活躍されている一般財団法人神奈川県建築安全協会の伊藤氏(意匠設計担当)、金氏(構造設計担当)をお迎えしての第一部の講義を行っております。

☆ 以下、参加者のみなさまへ ☆

合格者セミナー(けんちくラーニングのすすめ)に参加された皆様おめでとうございます。

第一部の「今さら聞けない確認申請」はいかがだったでしょうか?建築士という資格の性質上実務経験のある方にとっては初歩的な内容が多かったかもしれませんが。青年委員会が常に実践している「持ち寄り、持ち帰る」の原点に立ち返った内容をお届けできたのではと思っております。審査の最前線に立たれている講師陣から守るべきこと判断するべきことを伝えていただきました。建築士としては全て知りえていなくてはならない内容でした。もし、知りえない情報があったとすれば今後建築士会の仲間として互いに研鑽し合えれば幸いです。

(第一部担当 山中信悟(湘南支部))



▲合格者のみなさま、おめでとうございます!これからのますますのご活躍を祈念いたします!

## 第2部 実務に役立つ「建築士法」

第2部“実務に役立つ「建築士法」”として、試験では出題されることがない定期講習の受講について、管理建築士の取得から事務所の開設について、業務報酬の考え方や、建築業法との関連についてのミニ講義を、須藤専務理事と奈良青年委員長が行いました。

中でも、建築士の「処分の方法」については自動車運転免許のように、一定の行為について点数が課され、累積点数により処分が科される一方で、自動車運転免許とは異なり「1年たっても戻らない」という部分には会場から驚きの声が上がりました。



▲建築士の処分の実例について説明する奈良青年委員長

☆ 以下、合格者のみなさまへ ☆

建築士には資格者としての「言葉の重み」があります。消費者は建築について解らないことが当然であり、そこに業務が介在せずとしても、資格者として言葉を発する以上は、客観的に、正しく説明するレスポンシビリティがあります。

言葉の重みは自己研鑽を積むことで増すものであり、言葉の重みをつけるために建築士会があります。これから建築士会で共に学んでいきましょう。

(第二部担当 奈良直史 (県央支部))



▲定期講習について説明する須藤専務理事

## 第3部 建築士免許証明書交付式／合格祝賀会



▲免許証はお一人ずつ、金子修司会長から手渡しで。初めて手にする免許証明書にみなさんニッコリと。

免許証明書交付式終了後は、合格祝賀会へ。今年の企画から、本会理事（各委員長）のみなさま、また、県内各支部長さん（代理の方含め）にご出席いただき、建築士会のPRをしていただきました。

免許証明書交付式では、一級、二級、木造、それぞれ所定期日までに登録申請が受理された方を対象に、金子会長から直接手渡しで交付させていただきました。

免許証明書はカード型ですが、交付式参加の方だけには会長名で賞状型の「お祝いのことば」に、免許証明書を貼付してお渡ししています。



▲求められれば記念写真も。この日を忘れないでください！



▲小田原支部のPRをする芝理事（左）、パネルを高々掲げ、建築コンクールバスツアーのPRをする教育講習委員会の高橋委員長（右）



▲県内の各支部エリアごとにテーブル分けして、各支部長さんと参加者のみなさんが、ご近所同士の参加者が交流した合格祝賀会

## 第4回 神奈川県ヘリテージマネジャー大会 テーマ 「つながって、歴史をつなぎ建物をつなごう」

平成29年2月19日（日）第4回神奈川県ヘリテージマネジャー大会が、横浜市開港記念会館において、開催されました。開会にあたり、建築士会会長の金子氏から、続いて県都市整備課長の川崎氏からご挨拶がありました。本大会は、第1回から3回まで一般社団法人神奈川県建築士会により開催されましたが、その趣旨を引き継ぎ、第4回からは、かながわヘリテージマネジャー協会にて開催する事になりました。かながわ地域貢献活動センターからの助成金を得て企画運営されています。又、神奈川県、横浜市、公益社団法人横浜歴史資産調査会、公益社団法人日本建築家協会関東甲信越支部神奈川地域会、一般社団法人神奈川県建築士会、湘南邸園文化祭連絡協議会の6団体が後援しています。

参加者80余名。そのうちお二人の方に投稿して頂きました。

（編集部）

### 第4回神奈川県ヘリテージマネジャー大会

島田 真弓

かながわヘリテージマネジャー協会が2016年8月設立されました。「邸園（歴史的建造物）保全活用推進員養成講座」が2009年度から2015年度まで開講され、受講した150余名の講座修了生が会員の対象です。受講生は県内各地から集い、すでに歴史的建造物の保全にかかわっていたり、古民家好きが高じて、居住者であったりと関わりのあるメンバーが保全設計監理コース（60講座）、活用マネジメントコース（40講座）に応募し受講しました。

特に「私たちが見つけた歴史的建造物」は、ヘリマネ講座の卒業論文的存在です。6～8名の行政区域でチームを構成し、地域の歴史的建造物を見つけ出し、所有者に調査の依頼交渉、建物や来歴調査、野帳を採り、所見を作成までの登録有形文化財申請のさわりを体験する講座です。当初は法規や工事現場見学会などは保全設計監理コースのみでしたが、活用マネジメントコースの受講希望が強く、後に受講可になり、活用マネジメントコースは「私が見つけた歴史的建造物の活用事例」として発表するようになりました。

この講座で培った縁が修了後、幾つかの仕事チームやまちづくり団体に発展しています。更には、「私たちが見つけた歴史的建造物」を実際に登録有形文化財に登録申請する動きもあります。見つけ出した建造物は地域の宝として周辺にも影響を及ぼしているようです。これまで神奈川県主催、建築士会の運営で3回のヘリマネ大会が開催され、その内容も初回は先進



会場の横浜市開港記念会館

事例の発表を聴く大会でしたが、以降は修了生の活用事例の発表の場になりました。そして今回、かながわヘリマネ協会が主催の大会になりました。パンフレットには「第4回神奈川県ヘリテージマネジャー大会」とありますが、実際は「第1回かながわヘリテージマネジャー大会」です。課題は多くありますが、乗り越える力は確実につきます。

かながわヘリマネ協会にまだ登録していないあなたも、ぜひ調査現場でまたお目にかかりましょう。そして「私たちが見つけた歴史的建造物」を地域の宝に育てませんか。



スクランブル調査隊の活動紹介

第一部パネルディスカッションを聴いて

相馬 立夫

大会は二部構成で行われ、第一部は、「歴史的建造物保全に取り組む各団体の活動と連携のあり方に関する討論」と題したパネルディスカッション、第二部はNPO 法人神奈川まちづかい塾代表で、ご自身もヘリテージマネージャー(以下ヘリマネと略称)でおられる小林絃子氏による講演という構成でした。

第一部では、パネリスト湘南邸園文化祭連絡協議会会長の内藤英治氏、横浜歴史資産調査会米山淳一氏、日本建築家協会(JIA)関東甲信越支部神奈川地域会笠井三義氏、神奈川県建築士会スクランブル調査隊内田美知留氏、かながわヘリマネ協会会長池田誠之氏からそれぞれの活動内容の紹介がありました。

その後のディスカッションで各パネリストから出された意見の一端を以下に紹介すると、保存をするためには利活用が必要だが、必要なスキルが全く違う。ソフト面でマネジメントをする人材をもっと育てる必要がある。また、建物・庭園の所有者など一般の方に向けて、現地でのアピールも重要ではないか(内藤氏) 同様の活動をしている会相互で実際にどんな具体的な協力ができるか、たくさんある NPO 等の団体をまとめる人材を育てる必要がある(米山氏) JIA の文化財修復塾等とヘリマネの相互乗り入れ・認証などを検討してゆく必要がある(笠井氏) 建物は歴史でありアイデンティティである、壊してしまうと戻せない。その時その時でできることを尽くして残せるよう努めていく必要があるが、ボランティアではなく職能として認められる必要がある(内田氏) 等々、各々

の活動経験に基づいた貴重な意見が多数出されました。最後に、ヘリマネ協会池田会長より、今回の意見を参考に、協会の活動を進めていきたい旨の総括がありました。現在ヘリマネ協会は県下約 100 人の正会員がおり、相談利活用、建物調査、広報 PR 等個別の活動班をつくり体制を整えています。今大会を契機に 2017 年度以降も、引き続き、より具体的な活動を進め、神奈川県 の邸園(歴史的建造物)保存の機運が高まってゆくことが期待されます。



パネルディスカッション

最後に、景観整備機構委員会の長瀬委員長より閉会の言葉を頂き、その後記念撮影をし散会しました。



会場の様子



横浜市開港記念会館の階段で記念撮影

# 支部・委員会活動報告

横浜支部

## 美術館シリーズ～すみだ北斎美術館

横浜支部 鈴木 由紀子

北斎通りを進むと、小さな公園の奥にシルバーの変った形の建物が見えてきました。すみだ北斎美術館です。何も予習しないで訪れた私はこの形状に見学会の期待が膨らみました。

妹島和代建築設計事務所の福原氏より、設計・施工に関わる説明を聞きました。北斎の絵の中には視点を複数設けたものもあることから、この外壁にいろいろな角度で周りの景色を映り込ませたそうです。周りの風景や他の人々の暮らしを外壁に映し、北斎の絵に呼応する外壁デザインでした。

周囲の中小規模建築に合わせ、分割スリットを設



け、敷地の周囲が公園と道路の為、四方から通り抜けできる計画としたそうです。

入口で見上げると景色を映したガラスがガラスに反射していました。中は外からの印象より明るく、開放的なエントランスホールで、スリットの開口部が外の景色を効果的に切り取り、広がりを感じました。



所々に北斎の絵をモチーフにしたガラスが使用されていました。

4階の展望ラウンジからは、東京スカイリーを望むことができ、ゆったりくつろげる場所でした。



外に出て改めてこの美術館の外観デザインを見てみると、ガラスの開口部はこのような角度のスリットにすること、ガラス面にエキスパンドメタルを覆うことにより、アルミの外壁が引き立ち、この美術館のコンセプトになるデザインが際立つことが実感できました。

帰りに複合飲食施設に改装された両国旧駅舎に立ち寄り、この日の私の建物探訪は終了しました。

防災委員会

## 「平成28年熊本地震・木造住宅被害調査報告」講演会 ～熊本地震の建築時代ごとの木造住宅被害と防災を考える～ 講師：京都大学 教授 五十田博 先生

東京建築士会 河原 典子

日時：平成29年2月17日 18:00～20:00

場所：横浜市開港記念会館 参加数：80名

### 講演会の感想

五十田先生のお話は、2時間ではお話しきれないほど内容が、ぎゅうぎゅうに詰まっていたらして、半日くらい講演してもらいたいほど、本当にもったいないものでした。私たち設計者は、木造住宅の構造・施工を常に勉強し、切磋琢磨して、日本中の多くの木造住宅に住む人が、より安全に安心して暮らし続けられるように努める責任があります。

それには、一般の方々に分かりやすく、住まいの構造のこと、耐震のことを説明し、考えて選択いただけるように、もっともっと、先ず私たち自身が理解しないとイケないと痛感しています。もちろんご予算もあるし、ご要望もいろいろありますが、何にも変えがたい命を守り、被災した時の被害、復旧の困難さとダメージをきちっと伝えていきたいと、改めて思いました。400件あまりの耐震診断調査の経験をし、木造住宅設計と構造計画、施工の危うさを目撃してきた人間として、今後働きたいと思っています。構造が全く考慮されていない、木造住宅設計を甘くみている、外見と間取りだけの住宅だらけと言っても言い過ぎでないくらいです。そのような住宅の耐震性能に関しては、本当に怖いです。

木造住宅耐震性能の危うさの一番の原因は、耐震基準の違いではなく、設計者の耐震性能への認識と考え方だと思えます。もちろん、耐震に関する時代の変遷も大きく影響しています。

まだまだ解明できていないこともありません。それでも、私たちができることは、（木造は、分かっている）、（自分は経験と設計技術があり、木造住宅設計のエキスパートだ）と誤解している設計者の勘違い、（自分たちは、たくさん木造住宅を、建ててきたから大丈夫）、分かっているという施工者の勘違いを改めて、勉強し続けて、設計・施工していくことです。



# 支部・委員会活動報告

## 福利厚生委員会

日帰り研修旅行に参加して  
香取神宮・佐原・国立歴史民俗博物館

川崎支部 嶋崎 祐一

3月11日(土)は朝8時10分、横浜を出発して10時過ぎには目的地の佐原へ到着する事ができました。到着後は定番の酒蔵見学・試飲会へと流れて行きました。

11時に早めの昼食を「千与福」で頂き、正午には「小江戸さわら舟めぐり」にて千葉県有形文化財である建築物を川面から眺める事ができました。



舟に揺られ伝統的建造物群を眺めているとまるでタイムスリップしたかのような錯覚を覚えました。

次に向かったのは国指定重要文化財である「香取神宮」です。

まず目に入ってくるのは朱色が鮮やかな楼門です。黒塗りの本殿との対比が素晴らしいです。本殿は黒塗りではあるが細部が色彩豊かで屋根葺も綺麗に整備されており荘厳で重厚な佇まいであります。

最後に訪れた「国立歴史民俗博物館」では正面玄関に半旗が掲げられており今日が3.11である事を再認識させられました。

第1展示室はリニューアル工事中、第2展示室：中世で1時間位時間を掛けてしまったので残りの4展示室が足早で観る事となり非常に残念でした。どの展示室も内容が濃く観応えのある展示品群でした。地元の学生さん達は昼ご飯を用意して1日掛けて見学して行くそうです。

また建築士会の研修会に参加したいと思っております。

## 教育講習委員会

神奈川建築コンクール作品見学会  
大和町団地・横浜医療福祉センター  
東寺尾どろんこ保育園

川崎支部 白石 梢

3月23日(木)、建築士会に入会して初めての見学会に参加させていただきました。

最初の作品：大和町団地(賃貸集合住宅)WR C造3階、中庭を囲んでロの字の建物でした。外断熱のモルタルに溶融亜鉛メッキの手摺等で、無機質的な外観ですが、内部に里山の間伐材を使用するなど温かみを感じるデザインでした。特に、中庭の設えにより、住戸内への風通しを配慮し、住居者をホッとさせる空間を感じ、神奈川県住宅供給公社賃貸住宅の新しいプロトタイプの提案というタイトルに納得しました。

2作品目：横浜医療福祉センターは、大規模な重症心身障害児のための入所施設として建設された建物ですが、出来るだけ外部の社会を感じさせる町並みを内部に取り込み、工夫をこらしたデザインの作品でした。

運営側の社会福祉法人の、総合的福祉センターの思いを実現された、興味深い建物でした。18歳未満の方を対象とした施設で、病床に有る子供たちが、学校を体験できるように、建物内に学習施設も整えられている事は素晴らしいと感じました。

最後に見学した作品：東寺尾どろんこ保育園は木造2階建の建物で、敷地形状を旨く利用し、園児の遊び心を引き出す、楽しい作品でした。



どろんこ保育園での集合写真

貸切りバスが満杯に成る程の参加者で、3建物3様の面白さがあふれる見学会を十分堪能した、一日でした。

# 支部・委員会活動報告

## CPD・専攻建築士制度委員会

### 専攻建築士 懇話会開催

委員 三宅 信夫

日頃は、CPD制度及び専攻建築士制度にご理解いただきありがとうございます。

CPD制度は、神奈川県内においてもプロポーザルなどへの活用が広がり参加者も増えている状況です。これからも会員の皆様へ質の高いCPD単位を取得できるよう、質の高いプログラムを提供するための単位認定や活用推進等を行ってまいります。

専攻建築士制度については、CPD制度が他の建築関係団体と協働して運営している制度であるのに対して、建築士会独自の社会的な制度であることもあり、認定者数は平成20年以降漸減している状況となっています。



そこで、今後の専攻建築士制度の方向性を考えるために、本会の専攻建築士認定者へアンケート調査を行うとともに、昨年11月11日（金）に専攻建築士認定者と本委員会委員との懇話会を開催いたしました。その中で、下記のように大変貴重なご意見をいただきました。

#### 【懇話会での意見】

- ・専攻に何かあるという期待感を持っているがまだわからない。
- ・仕事での横への広がりや出会いなどがあればと考えて専攻建築士をとった。
- ・専攻建築士が何なのか理解されていない。
- ・制度をこれからどう進めていくのか、何の役に立つのかをはっきりしたほうが良いのではないかと。
- ・専攻建築士である意義が見出しづらい。
- ・建築士の中での認知度が低いのも問題。
- ・この懇話会で初めて専攻建築士のチラシを見た。

- ・支部ではほとんど専攻建築士についてアナウンスされていない。
- ・専攻別の名簿を専攻建築士の中で共有してはどうか。
- ・更新の時に自分の専門分野について重きを置いてほしい。

これらの意見をどう生かしていくか、現在、委員会で検討を行っています。

なお、アンケート調査の結果は、本会ホームページのCPD・専攻建築士のページに掲載しておりますので、ぜひ、ご参照ください。

また、去る3月28日に開催された、日本建築士会連合会専攻建築士認定評議会におきまして、平成28年度専攻建築士申請者916名が認定され、全体認定者数4,296名となりました。

■新規申請	35名	38領域
■更新申請	873名	1,115領域
■経歴申請	8名	10領域
計	916名	1,163領域

今回本会の更新認定者は次の30名の皆さんです。

(敬称略、五十音順)

青木 政晃（統括設計）、飯高 芳幸（統括設計）  
石井 新一（統括設計）、市原 美智雄（建築生産）  
門井 明夫（統括設計）、加藤 晴男（統括設計）  
金子 信康（建築生産）、金子 信行（統括設計）  
小林 一博（構造設計）、小松 正道（構造設計）  
齋藤 良信（統括設計）  
櫻内 巧弘（統括設計・建築生産）、  
笹原 豊生（統括設計）  
新明 健（まちづくり・統括設計）  
鈴木 章弘（建築生産）、高守 正純（建築生産）  
武宮 秀教（統括設計・法令）  
中河原 徹（統括設計）、中村 亘（統括設計）  
成井 孝（統括設計）、根岸 光司（統括設計）  
林 和夫（建築生産）  
林 秀彦（統括設計・建築生産）  
原 昌吾（統括設計）、藤井 薫（建築生産）  
山口 裕子（統括設計）  
山本 康彦（統括設計・建築生産）  
山本 幸定（建築生産）、渡邊 一郎（統括設計）  
渡辺 恒美（建築生産・法令）

これからもCPD制度、専攻建築士制度をよろしくお願いいたします。

### ◆委員長から一言◆ (村島 正章)

新年度が始まりました。もう1期委員長として委員会運営に関わることになりましたので宜しくお願いします。今年度も4部会の特徴を出した企画を進めていきますので、ぜひ皆様参加して、仲間になって下さい。

### ■福祉部会 (熊澤 徹)

2月18日に開催した研修会に御出席頂いた、介護支援専門員協会 三枝様より下記の感想文をご寄稿頂きました。課題に対し様々な意見を交換する事が出来、改めて他職種の方々との連携の大切さを実感いたしました。



(参加者) 神奈川県介護支援専門員協会  
理事 三枝 公一

平成29年2月18日神奈川県建築士会主催、神奈川県介護支援専門員協会・神奈川県理学療法士会・神奈川県作業療法士会の後援で「専門職連携～空き家再生ワークショップ」が開催されました。

私は介護支援専門員として参加しました。冒頭に基本的な地域包括ケアシステムについて簡単に話しをさせていただきました。建築士のみなさまはよく勉強され、かつ理解されているようで、逆にもう少し深い話をした方が良かったのではないかと反省しております。

研修のテーマ自体が介護支援専門員だけではやることのない内容であり、私にとっても建築士のみなさまと一緒に研修に参加するのは新鮮で、勉強になりました(今回はファシリテーターとしての参加でしたが)。実際はデイサービスと居宅介護支援事業に使用された「空き家」がテーマでしたが、グループごと、地域に住んでいる人の時間軸で利用方法を検討したり、家に遊びに行く感覚を大事にしたコンセプトで検討されたりと、建築物を通して地域が元気になる方策、いわゆる地域包括ケアシステムを多職種で考える有意義な時間を過ごしました。

残念ながら介護支援専門員が受講しなければならない法定研修関係と日程が重なってしまったため、介護支援専門員の参加が少なくなってしまったことは反省として残りますが、建築士会様との専門職連携の研修は継続していただきたいと思います。

ありがとうございました。

### ■木造塾部会 (角 栄子)

2月4日(土)に波止場会館5階多目的ホールにて講習会を実施致しました。講師は左官職人の久住有生さん。平成28年度木造塾<伝統的構法を支える人々~敢えて伝統的な構法・素材に挑む~>第3回「左官の仕事」と題してお話頂きました。

当日の参加者は61名でした。

講習ではご自身の生い立ちから左官職人となられるまでの話、国内での仕事、そして海外での仕事やいくつかの特別な活動について語って頂きました。また様々な種類の鏝など大切な道具も会場にお持ちいただきました。

文化財の修復の仕事から公共建築、ホテルや商業施設での芸術作品と呼ぶべき仕事まで幅広く活動されていますが、相当量の修行で身につけられた技術を有するからこそできる仕事と感じました。沢山の作品写真と共に久住さんから直接語られる言葉には、土壁や左官の魅力を強く印象付けられるものがありました。

また、より良いものを探求し続け、それを提案して実現させるべき、そういう強いメッセージも感じました。



講習会実施後の3月30日(木)に、久住さんが関わられている「つくるガウディ」展(於:常滑市INAXライブミュージアム)を見学に行きました。グエル教会の幻の地上部分をモデルとしてつくられた展示は土壁と特別に焼かれたタイルで構成され、ガウディの実測をつづける田中裕也氏の図面展示もありました。また堀口捨己設計の陶芸研究所、やきもの散歩道など周辺にも見どころが沢山あり、充実した見学旅行となりました。

